

阿蘇海流域ビジョン

スローガン

- みんなの力で取り戻そう！未来へそそぐ阿蘇の海

阿蘇海流域の将来イメージ

内海を眺めると～

- キラキラ光る青い海 松の緑も鮮やかに 美しく映える天橋立が浮かび
- いつもさわやかな風に包まれ 磯の香る海は穏やかに 足下まで透き通るほど美しく
- 山～川～海へ 森に守られ自然と調和がとれた海は 魚や貝など生命育まれ躍動する

野田川などの上流を眺めると～

- 手入れされた里山は恵み豊かな清流を育み 美しい川面は四季折々の色を写しだす
～春には桜咲き誇り からし菜やわさび 山菜が芽吹き
～夏には木々が青々と輝き アユが飛び跳ね飛び交うホタルは光を灯し
～秋には紅葉の彩り鮮やかに サケが遡上し里山の生命を育む木々は実りも多く
～冬には美しく雪化粧 飛来する渡り鳥と生命息吹く春の訪れを待つ

暮らしを眺めれば～

- ゴミのない美しい風景に人々は集まり 豊じょうな自然は人々の生活に潤いを与え
- 水遊びに興じる親子の歓声が響き 子ども達は「森は海の恋人」と大人達に教え
- 誰もが自慢に思う 生命の恩恵と笑顔溢れるふるさとの海を守り 次の世代へ継承する

目指すべき環境・目標年

- 内 海：外海と同じくらいきれいで豊じょうな海
 - 上 流：豊かな自然の維持と人の営みとの共生
 - 暮らし：下水道が100%接続され生活排水が流されない。
：オリンピックイヤー（2020年）までに不法投棄ゴミをゼロにする。
- 目 標 年：2030年
(中間目標：2020年)

3つの基本方針

意識の共有

- 流域全体で意識改革
阿蘇海に関心と危機感を持つ
- 世界遺産にふさわしい
まちづくり・ひとづくり
- 美しい阿蘇海とその流域を
次世代へ継承する

生態系の保全

～山・里・川・海～

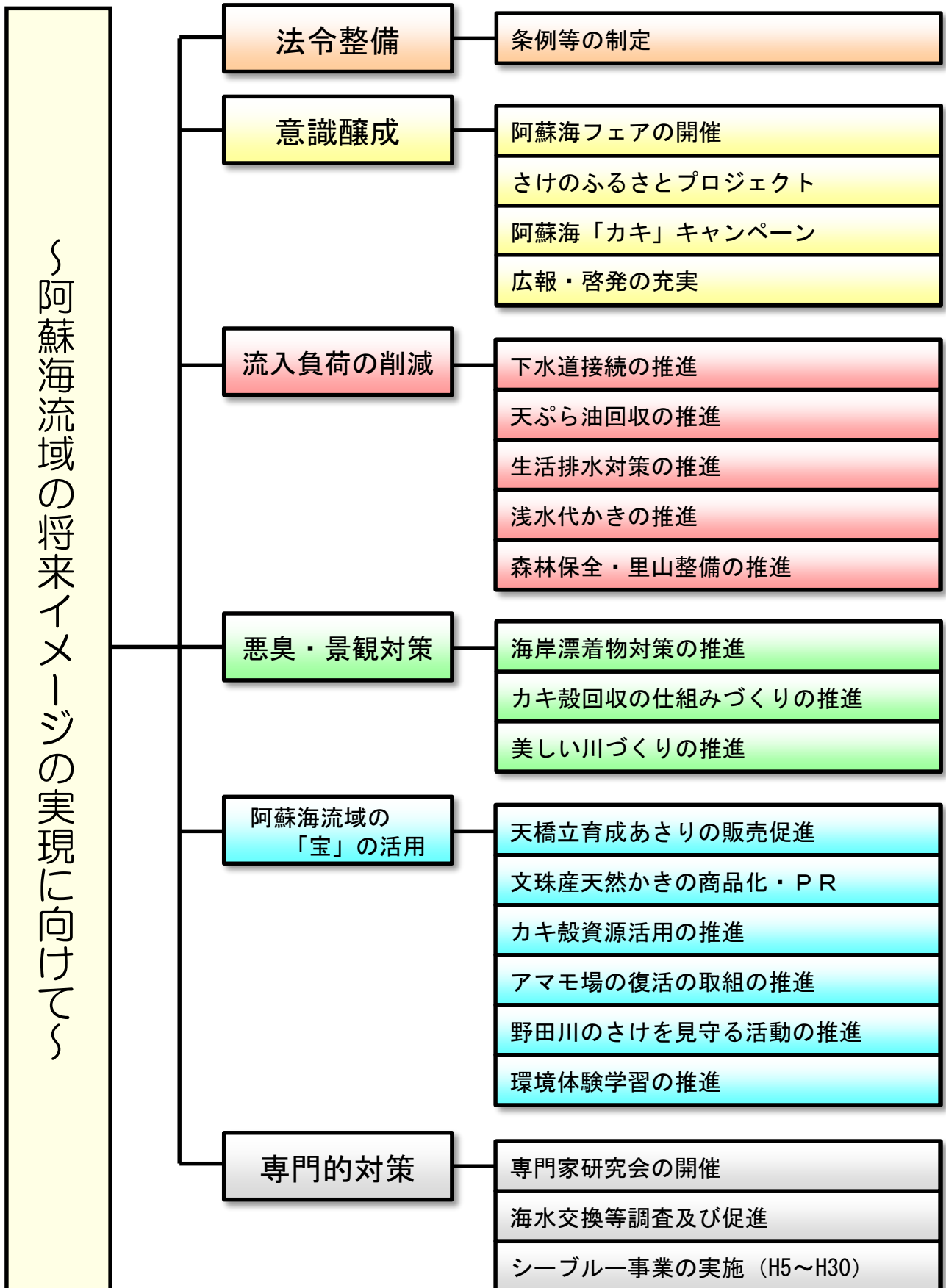
- 水質保全
- 生活環境の保全
(漂着物の回収、清掃)
- 生物の保全
- 循環の仕組みづくり

阿蘇海流域の活用

- 美しい景観の形成
- 里・山・海の環境学習
- 特産物のブランド化
(天橋立、環境付加価値等)
- 地域経済活性化の仕組みづくり

阿蘇海流域ビジョン

地域と協働した取組の体系



ワークショップで出された施策のアイデア

<啓発・環境学習>

- 流域住民を対象とした阿蘇海流域環境改善意識の啓発（例：阿蘇海フェア、観光名所から知る阿蘇海）。
- 観光客を対象とした点字看板設置等による阿蘇海の紹介。
- 食を切り口とした阿蘇海流域環境改善意識の啓発（阿蘇海流域産の食材を住民に配布する等）。
- 阿蘇海流域を題材にした俳句会の開催。
- 野田川など阿蘇海流域で刈り取った稲や草の回収意識の啓発（漂着ゴミ対策）。
- 野鳥に絡まる釣糸や釣針を捨てないよう啓発。
- 自治体から自治会単位への取組を啓発。
- 阿蘇海周遊サイクリングロードの更なる整備、夜間の外灯を増やす。
- 上流と下流で交流を深める（農業事業者との話し合い等）。
- アサリ獲り等遊ぶことで阿蘇海に親しむ（魚介類を捕っても良い日、解放日を作る等）。
- 学校給食において阿蘇海流域産の食材を使う。
- 小学校でお米作りを学ぶ。併せて身近な自然（山、里、川、海）の事も学んでもらう。
- 海っ子・山っ子の交流を推進。

<水質保全、生活環境の保全等>

- 家庭排水を直接流さないように早急に下水道を整備し100%の接続を目指す。
→下水道整備までの生活排水対策（家庭からゴミ、食べガラ、不純物、風呂の水を出さない等）。
- 田畑から富栄養化物質が流出しないようにする（浅水代掻きの実施等）。
- 山に実のある木を植える（土壌の安定、土壌の窒素等の吸収等）。
- 野田川など阿蘇海流域の河川敷の葦刈り、野焼等の検討（漂着ゴミ対策）。
- 曝気による水質改善（例：噴水。ライトアップして夜もきれいで一石二鳥。ドバイみたいに）。
- 貝による水質浄化（例：隔離水界におけるアサリの垂下育成による水質浄化試験）。
- ヘドロ浄化処理工場の建設（雇用対策含む）。
- EM菌による水質浄化。
- 海草回収による窒素・リン等の回収。
- きれいな川砂をヘドロ推積のところに散布。
- 上流からの水を浄化する装置を整備する。
- 貝をみんなで取って水を混ぜる。
- 阿蘇海へ府中の外海から海水を入れる。
- ヘドロを浚渫しゼオライトや吸湿剤として活用。
- 阿蘇海沿岸全域を清掃するため各自治会の担当地域を決める。
- 年間4回くらいは住民一斉清掃をする。
- デポジットシステムの導入（ごみ対策）。
- 悪臭対策として、アオサ・カキ等の定期的な回収及び捨て場等処分方法の確立。

<農林水産物・観光等>

- 特産物のブランド化（天橋立ブランド、環境ブランド等）。
→阿蘇海の窒素・リン等を吸収・固定した海藻類を取り上げ、農作物等の生産に利用し食べる。
→阿蘇海の窒素・リン等を吸収・固定した魚介類を食べる。
- 育成アサリオーナー制の導入。
- お客を呼び込める施設づくり、くつろぐ事ができる地域づくり（販売促進）。

<調査研究・行政>

- 阿蘇海流域の環境データの収集・整理。
- 流域全体が利益を共有する方法の検討。
- 野田川から阿蘇海へ流れ込むゴミ・ヨシを防ぐ取組の検討。
- 森林に目を向ける「森は海の恋人」的取組の検討。
- 流域全体が活性化する施策（行政の補助金の継続：地域力再生プロジェクト交付金等）。
- 釣のまき餌の禁止、ポイ捨て禁止など条例化の検討。
- 木質バイオマスの利用推進。